

おわりに

無駄安留記隊も三年目を迎えました。邑美郡から岩美郡へと学生とともに調査を実施してきましたが、今回の調査区域は法美郡です。現在の鳥取市になりますが、詳しく言うと旧国府町を中心とした地域（一部旧鳥取市域を含む）です。ここは、「万葉のふるさと」、「岡益の石堂」、「宇倍神社」、「池田家墓所」といったよく知られた名所があるところです。無駄安留記の著者もこの名所に大部分の紙数をさいたことは、翻刻の拾遺巻の部分に目を通していただければ十分わかります。それだけ過去に注目され、現在も名所として残っている場所であることを示しているといえます。

さて、今回の学生メンバー六名は、なかなかの個性派が名を連ねたような気がします。彼等は、一年間の調査を通じて、意欲的に報告や報告書の作成に取り組んでくれました。今回取り上げた項目も、实地調査をしたなかから彼等自身を選び出したものです。それぞれ持ち味を出した内容を提供してくれていると思います。しかしながら、他の文献（例えば『因幡志』）との比較には少々苦しんだようです。学部二年生で文献資料をうまく使いこなすのはまだまだ困難ですが、このような経験も次のステップへ進む重要な課題だと思います。ここで苦しんだ分だけ、三年生の段階でいかすこともできると信じています。

ところで、この報告書を一読してもらえばわかると思いますが、今回取り組んだ項目には、最初に述べた現在の名所がほとんどできていません。無駄安留記がそこに力点を置いていたことは否定できないところですが、今回学生が取り組んだのは、そうした知られた名所の陰で見え

なくなってきた隠れ名所なのです。しかも、この項目を選定したことによって、かえって現在の名所の意義を鮮明にしているのです。例えば、法美郡のさまざまな場所に「平家伝承」が根強く残っていることは「岡益の石堂」だけでなく、崩御宮、新井の石舟、清水橋、学院などをみればさらに明白となってきます。この地域独特の伝承と歴史が、名所をつなぎあわせ、一つのまとまった名所をつくっていることがわかります。さらに、意上奴神社、稲荷明神、福田寺、多聞寺毘沙門堂など特の変遷をたどってきた寺社が少なくないのです。

一年目、二年目と比べ、あきらかに法美郡はあるまとまったイメージが投影されたものとなっていったように思います。無駄安留記の著書はそれを意識的か無意識的か判断できませんが、十分認識していたように感じました。そして学生も非常に興味深い地域であることも薄々感じていたような気がします。教員としては、この経験を十分にいかして今後知的な好奇心をますます高めていくことをのぞんでいます。そして、この成果がさらに地元の文化研究にも役に立てばありがたいと思います。

最後に、この調査にあたって貴重なお話をいただいた田中博氏をはじめご協力いただいた方々にはこの場をかりてお礼申し上げます。

（地域文化学科教員 岸本覚）

2007 年度 無駄安留記隊 隊員

安道 詩織 (あんどう しおり)	鳥取大学地域学部地域文化学科二回生
石原 菜津子 (いしはら なつこ)	〃
進藤 健裕 (しんどう たけひろ)	〃
西尾 章太郎 (にしお しょうたろう)	〃
西住 彩 (にしずみ あや)	〃
森中 孝佑 (もりなか こうすけ)	〃
茨木 透 (いばらき とおる)	鳥取大学地域学部地域文化学科教員
岸本 覚 (きしもと さとる)	〃
田中 仁 (たなか ひとし)	〃

無駄安留記隊報告書 2007

鳥取大学地域学部地域文化学科 2007 年度地域文化調査

2008 年 3 月 31 日 発行 (非売品)

編者 田中 仁
茨木 透
岸本 覚



発行所 鳥取大学地域学部地域文化学科
〒680-0945 鳥取市湖山町南 4-101
<http://www.rs.tottori-u.ac.jp/ibaraki/mudaaruki/>

